

## エカフェ地域における家族計画プログラム評価のための サービス統計システムの比較研究に関する研究者会議

標記の会議が、1973年4月2日から7日にかけて、エカフェ人口部主催の下にタイ国バンコクにおいて開催され、本研究所人口資質部長篠崎信男技官もこれに出席した。会議の日程を示すと次のとおりである。

### Comparative Study of Service Statistics Systems for Evaluation of Family Planning Programmes in the Countries of the ECAFE Region Meeting of Country Co-ordinators Bangkok 2-7 April 1973

#### AGENDA

1. Welcome and introduction
2. Adoption of agenda and work programme
3. Regional and country-wise reporting on service statistics systems
4. Concepts and terms used in family planning programme operation and evaluation
5. Recording and reporting of primary data in family planning programmes
  - a. recording of output data
  - b. recording of input data
  - c. reporting of data to various administrative levels
  - d. manuals for recording and reporting
6. Tabulation, analysis and feed-back
  - a. regular reports for administrative use
  - b. special reports produced occasionally
  - c. feed-back to reporting units
  - d. extent of mechanical and computerized tabulation
7. Procedures used for assessing and improving reliability and validity of family planning statistics
8. Feasibility and desirability of integrating family Planning statistics systems with health statistics
9. Suggestions for use of service statistics systems as a tool for improved programme monitoring and management
10. Adoption of draft recommendations

エカフェの人口部は昨年度から始まった“Comparative Study of Service Statistics Systems for Evaluation of Family Planning Programmes”の調査結果をもとに会議を開催したのであるが、この comparative study は8つの大項目に分れ、この中で細かな質問が107以上あり、各国にこの記入と意見を求めたものである。

もちろん日本としては筆者（篠崎）がこの任に当たったが、日本の実情とアジアの国々とは必ずしも一致しないので、(A)の General Programme Information と (B) Organization and Personnel, (C)の Personnel Table, (D) Family Planning Targets, (E) Budget and Finance, (F) Definitions of Key Terms and Concepts, (G) Evaluation の回答だけで最後の (H) の Service Statistics については人口動態を扱う統計調査部や研究機関のあり方を紹介するにとどまった。

参加国はタイ、韓国、インド、フィジー、インドネシア、シンガポール、フィリピン、ネパール、マレー

シア、日本の10か国であったが、このほか observer として WHO から3名、Population Council から1名の参加があった。

Chairman はエカフェの Dr. Sook Bang (韓国) がなり、説明者として、この調査を担当した Mahopatra 氏が当り、他にインド人でエカフェの人が助言していた。テーマは各国の country report から始まり、いかにしたら比較研究に便ならしめるような service statistics system ができるかという議論に終始したとあってよい。日本は特別の位置にあるので主として聞き役に回ったが、統計的処理やその体制が不備なアジアの国々では多くの問題が提起されている。特にアジアでは IUD やピルが使用されているため、その使用者を follow up して、いかに統計処理するかなどたいへんである。したがって、日本の場合は国民が1人1人自由に受胎調節をやっているため実行者と呼んでいるが、アジアでは acceptor と呼んでいる。しかし日本のやり方が大部再認識され、インドネシアでは IUD は次第に減少しコンドームが台頭し出したこと、フィジーでは日本式に自由にコンドームやピルが売店で買えるようにしたといった報告もあって、家族計画は方法論や、そのやり方に変化の兆が見られていたことが特徴的であった。統計のとり方その他で議論百出していたが、この議論の時に WHO からきたオーストリアの Doctor が、そんなことは WHO では3年前に議論済みだといったことが印象的であり、何かくだらぬ人口理論の論議に集中していることに批判的であった。とにかく国柄も違う民情、宗教も異なる中での画一的統一的システムを作るのは容易でないことを思わしめた会議である。

(篠崎信男記)

## 人口成長目標と人口学的研究に関する国際セミナー

1. Seminar on Demographic Research in Relation to Population Growth Targets が1973年4月3日(火)から9日(月)まで Trinidad and Tobago 国の St. Augustine (Trinidad 島にある首府 Port of Spain の郊外) にある University of the West Indies で開催され、黒田俊夫人口政策部長が出席した。これは、the Committee for International Coordination of National Research in Demography (CICRED と略称) と西印度大学と中心となり、UNFPA の財政援助と UN 人口部の技術的協力の下に行なわれたものである。会議の内容については、the Hebrew University の H.V. Muhsam 教授が co-director として1年がかりで準備に当った。2月には来日、イスラエル大使館を通じ面接の appointment を要請してきた。2月12日面接した際このセミナーに参加方強い要望があった。3月の国連人口委員会第2回特別会期の直後であったため、機をえてこのセミナーに参加することができた。この会議の director は、西印度大学の Institute of Social and Economic Research の所長 Jack Harewood である。
2. 議事日程は次の如くであった。
  - 4月3日：開会式、プログラムの採択、役員選挙、Co-director の基調演説が午前行なわれ、午後には *The concept of "Population Growth Targets"* のセッションにはいった。
  - 4月4日：午前は *Levels versus Rates*、午後には *Paths and Timing* の session が開かれた。
  - 4月5日：Criteria として午前は *Economic criteria*、午後には *Non-economic criteria* (Uranism と Other criteria) のセッションが開かれた。
  - 4月6日：Means of action として午前は *Family planning*、午後には *Non-family planning* (Migrations と Other means) のセッションが開催された。
  - 4月7日：8日の週末2日間は Rapporteur としての G. McNicoll (東西センター・人口研究所) が最終報告書作製にあたり、セッションはなかった。
  - 4月9日：午前は *Compatibilities of the various targets* のセッションがあり、午後は McNicoll の報告を中心に討議が行なわれ、そのあと閉会式が行なわれた。CICRED の director の Bourgeois-Pichat,